

6・14-15集会に向かっての

織田・全学連委員長のアピール

私は3年前の3月14日に、立て看板の問答無用の撤去に抗議して逮捕されました。立て看板の撤去に反対する学生を、200人の警察と手を組んで逮捕させた法大当局が3年経った今、今度は自分の立て看板を撤去されたのに憤慨して、学生たちを警察に売り渡しています。

人間らしく生きたいと願うすべての学生は、この法大当局の暴挙に声をあげよう！なぜなら、撤去されて憤慨している法大当局の看板によって大学から追い出されているのは、表現の自由を守ろうと闘ってきた正義の学生たちであり、さらにはその中で学費未納で追い出された学生だからです。

「営業権」の名のもとに、学生の一切の表現活動や教育を奪つてきた法大当局の路線がここに示されています。今年3月の法大決算で、学費を使ったマネーレースで28億円の損失が出ています。本当にこんなことを許しておいていいはずがありません。

4月24日、1500人の学生が「こんな大学おかしい！」と当たり前の声をあげました。これをなかったことにしようと、集会を呼びかけた仲間を逮捕して、「学生は利用されているだけだ」と法大当局は言い放っています。ならば、さらなる怒りの声をあげてこの現実をぶち壊そう！

時代は戦争に向かっています。北朝鮮の戦争の危機、そしてアメリカ発の金融大恐慌に見られるアメリカの体制の危機、そして見たとおりの日本の自民党支配の危機。起こっていることは世界の支配体制の危機であり、戦争もそこから生み出されていると見る必要があります。

94年の「朝鮮危機」の際、軍事物資の輸送や空港・港湾の軍事利用、病院の提供など1000項目を超える戦争協力要請がアメリカ軍によって日本に突きつけられました。しかし、戦争体制のない日本の状況、とりわけ日本の労働組合の取り込みが進んでいない状況から、この朝鮮危機は回避されました。もう一度こうした状況に戻った今、労働組合の解体に向かって政治が進もうとしています。GM破産も、「闘う労働組合が悪い」と大バッシングのネタになっています。

大学はそして学生は、こんな時代にいかに生きるべきでしょうか？未来を切り開くために教育があり、古い価値観をぶち破る中に歴史の創造があります。その学生が、自由を掲げては弾圧され、軍事研究や学徒動員に向かうなどということは絶対にあってはいけない。法大の闘いは、仲間のために立ち上がり、大学とこの社会を創造していく学生が団結を取り戻す闘いです。戦争の問題も、自分が隣の仲間とどう生きるかという問題も、一つの問題です。学生は、仲間を大事にしなきゃいけない。団結して立ち上れば、絶対にこの現実を変えることはできる。ともに声をあげましょう！



全学連委員長・織田陽介君(東北大学、現在「暴処法」でっち上げ起訴で勾留中)

国鉄1047名解雇撤回！
労働者派遣法撤廃！ 改憲阻止！
法大学生弾圧粉碎！ 麻生政権打倒！

6・14

全国労働者

総決起集会

6月14日(日) 13時開会
代々木公園B地区(けやき並木)
呼びかけ：国鉄千葉動力車労働組合
主催：6・14集会実行委員会

